

多摩大生のクオリティオブキャンパスライフに関する調査研究

- 学生の居場所に関するニーズをさぐる -

梅澤ゼミ 菅 寛貴

1. 研究動機

学生は講義などで常に拘束されているわけではない。単位取得の関係で講義と講義の間に時間が出来てしまうことも多々ある。いわゆる「空き時間」だ。このような時間を学生はどのように活用しているのか（実態調査）、また学生生活を豊かにするには何が必要か、「空き時間」を有効活用できる施設はどのようなものか。このようなことを調査し、学生が望む居場所を提案したいと考えた。

2. 研究背景

大学生活において空き時間の利用をどのようにすべきか迷っている学生は結構な数いるだろう。インターネットで「大学 空き時間」で調べてみると同じ悩みが多数存在しているのがわかった。実際に空き時間に学生がやることといえば思いつくものもある。空き時間に講義のレポートを進めている学生もいれば、読書にふける学生もいる。友人と会話を延々としている学生もいるだろう。調べていくうちに一部の学生は、学校内にある施設を利用しているなどの記述もあった。その中で多くあったものが、スポーツジムなどの施設や、仮眠のためのレストスペースである。神奈川大学では学内に一般開放もおこなっている有料トレーニングルームがある。これは学生だけでなく教員も利用している。トレーニングルームを通じて学生と教員の交流の場として活用することも可能だろう。京都大学などでも仮眠室が設置されている。空き時間に仮眠を取れば講義にも集中できる。「空き時間」の活用法としては最も適しているものかも知れない。何より、レストスペースの使い方は様々ある、食事の出来る場所であれば勉強に励む場所にもなりうる。食堂や図書室でも出来ることであるが、常に空きがあるとは限らない。そのため、このようなレストスペースは多くの要望があるのではないか。

3. 先行研究の検討

多摩大学ホームページの中に、「学生サービス認識度調査」というものがある。そこから2008年から昨年度までの6年間のデータが読み取ることができる。その「学生向けサービス向上」のページで目立って見て取れたのが、施設に対しての要望だ。全体のデータを見て、施設に対して満足していると答えている学生が多かった。だが、中には既存の施設への不満もあれば、新施設に対する意見や希望などが多く存在した。2008年のデータからは、既存の施設の不満が多かった。だが、殆どのものが昨年の改築により改善されていた。（例：コンセントの量、電子レンジの設置、ネット回線の範囲）その中にも仮眠スペースの要望

もあった。2013年の調査では講義の合間などの学生の居場所に関するアンケートも行った。その結果、学生の約3割が図書室を居場所と回答していた。図書室にいる学生を調べたら、大部分の学生がPCを使い作業を行っていて、他の学生は貸し出しのDVDを観ているか、仮眠をしている者ばかりだった。図書室で読書をしている人間はほんの数人程度で、日によっては全く居ない日もあった。ここから考えるに、図書室に行く学生の殆んどが、静寂な環境を求めて利用しているか、あるいは仮眠を取るために図書室を利用しているにすぎない。ならばやはり、それようなスペースがあったほうが良いのではないか。学生への意見を求め考えてみる。

4. 研究方法

多摩大生へのアンケート調査を実施

5. 研究結果と考察

6. まとめ

7. 参考文献・引用

多摩大学 学生サービス認識度調査より

<http://www.tama.ac.jp/guide/satisfaction.html>